

令和6年2月8日

都城市議会  
議長 長友 潤治 様

産業経済委員会  
委員長 岩元 弘樹

### 産業経済委員会報告書

令和4年第2回都城市議会定例会及び令和4年第3回都城市議会定例会において、閉会中も継続して調査をするものとして申し出た事件について、その調査結果を会議規則第109条の規定により、下記のとおり報告します。

#### 記

#### 1 調査事項

- (1) 畜産環境の整備及び処理に関すること
- (2) ふるさと納税の返礼品の取組みについて
- (3) スポーツ合宿の誘致・受入体制等について
- (4) 畜産の振興について

#### 2 本市における現状及び課題等について

- (1) 畜産環境の整備及び処理に関すること

日本でも有数の畜産生産高を誇る本市の畜産農家において、堆肥化できない家畜排泄物の処理に苦慮しており、排泄物を攪拌し堆肥化しても、受け入れる先がない状況である。

よって、本市の地域性に特化した畜産環境の整備及び処理について調査・研究することにした。

- (2) ふるさと納税の返礼品の取組みについて

本市のふるさと納税額は、近年常に上位を占めており、本市の発展に寄与している。そのうち、本市内で生産される農産物による納税額が占める割合は決して多くはない。また、他の自治体では総務省のガイドラインの拡大解釈等に

より問題となった事案が散見している。

よって、本市で生産する農産物を返礼品とする取組み及びふるさと納税制度の健全な運用について調査・研究することにした。

(3) スポーツ合宿の誘致・受入体制等について

本市の令和3年度のスポーツ合宿の誘致・受入については、プロスポーツが2競技種目、6団体、延べ宿泊者数1,725名、アマチュアスポーツが小学校から大学生まで12競技種目、79団体、延べ宿泊者数3,911名となっている。

今後の更なるスポーツ合宿の誘致・受入体制等の拡充について調査・研究することにした。

(4) 畜産の振興について

5年に1度開かれる第12回全国和牛能力共進会は、令和4年10月6日～10日までの5日間、鹿児島県牧園町で開催される。

全国でも有数の畜産業が盛んな本市から県代表の選出が無かったことが今後の大きな課題である。

### 3 調査の経過

| 日 程            | 活 動                   | 内 容  |
|----------------|-----------------------|--|
| 令和4年<br>3月15日  | 委員会<br>(委員間討議)        | 所管事務調査の内容について  |
| 令和4年<br>6月21日  | 委員会<br>(委員間討議)        | 管内及び管外行政視察について   |
| 令和4年<br>9月27日  | 委員会<br>(委員間討議)        | 畜産の振興について<br>スポーツ合宿の誘致・受入体制等について<br>ふるさと納税の返礼品の取組みについて |
| 令和4年<br>10月8日  | 行政視察<br>(鹿児島県牧園町)     | 第12回全国和牛能力共進会  |
| 令和4年<br>11月2日  | 勉強会<br>(都城スポーツコミッション) | スポーツ合宿の誘致・受入体制等について                                    |
| 令和4年<br>12月13日 | 委員会<br>(委員間討議)        | ふるさと納税の返礼品の取組みについて                                     |
| 令和5年<br>3月15日  | 委員会<br>(委員間討議)        | 畜産環境の整備及び処理に関すること                                      |

| 日 程            | 活 動                    | 内 容                                   |
|----------------|------------------------|---------------------------------------|
| 令和5年<br>6月26日  | 勉強会<br>(環境政策課・畜産課・農政課) | 畜産バイオマス発電推進事業について                     |
| 令和5年<br>6月26日  | 委員会<br>(委員間討議)         | 畜産環境の整備及び処理に関すること                     |
| 令和5年<br>9月25日  | 委員会<br>(委員間討議)         | 畜産環境の整備及び処理に関すること                     |
| 令和5年<br>10月24日 | 行政視察<br>(愛知県半田市)       | 生ごみ、食品廃棄物、畜産ふん尿等を利用したメタン発酵バイオガス発電について |
| 令和5年<br>10月25日 | 行政視察<br>(愛知県豊橋市)       | バイオマス利活用センターについて                      |
| 令和5年<br>12月13日 | 委員会<br>(委員間討議)         | 所管事務調査報告書について                         |

#### 4 調査の内容

##### (1) 畜産環境の整備及び処理に関すること

今後本市で取り組むカーボンニュートラル推進計画との関連性も含めたバイオマス発電の概要について執行部から説明を受けた。それを踏まえ、先進地である愛知県半田市及び豊橋市において、行政視察を行った。

##### (ア) 本市のバイオマス発電の概要について

令和5年2月の「都城市カーボンニュートラル推進計画」、3月の「都城市ゼロカーボンシティ宣言」、4月の「第2次都城市環境基本計画」と2050年までのカーボンニュートラルの実現に向けたロードマップの中で、特に、「農林畜産業におけるカーボンニュートラルモデルの構築」(バイオマス発電)と、「官民連携による太陽光発電設備の導入促進」を主要な施策として位置づけ取り組む予定である。

今年度は家畜から排出される家畜ふん尿を畜産バイオマス発電に活用することが、環境問題対策や再生可能エネルギーの利活用に有効であるかの検証を行う。

##### (イ) 愛知県半田市の状況について

半田市は平成28年にバイオマス産業都市構想を策定し、国の認定を受けた。その中で、「廃棄物の再資源化による循環型社会の形成」

を将来目指すべき一目標に設定し、生ごみ、食品廃棄物、畜産ふん尿等を利用したトリジェネバイオガス発電プロジェクトに取り組んでいる「㈱ ビオクラシックス半田」を視察した。

畜産ふん尿や生ごみ、食品廃棄物等を利用したバイオガス発電により、1日1,500世帯分の電気を中部電力に売電し、その排熱・排ガスやバイオ液肥を利用した植物工場を中心とする4つの事業化プロジェクトにより、「循環型社会の形成」「災害時の電力供給」「農業の振興」「畜産臭気の低減」を目指すと共に、先進的な産業振興を図っていた。

#### (ウ) 愛知県豊橋市の状況について

豊橋市は平成23年にPFI方式による「先導的官民連携支援事業」に採択され、平成29年に未利用バイオマス資源のエネルギー利用を行うための国内最大規模のバイオガス化施設（中島処理場内）を整備した。

市内の下水汚泥、し尿・浄化槽汚泥及び生ごみを中島処理場に集約し、メタン発酵によりバイオガスを取り出し、バイオガスはガス発電に利用していた。

また、発酵後に残った汚泥は、石炭代替の炭化燃料に加工してボイラーのエネルギーとして利活用し、生成された炭化製品はSPCが企業に売却していた。

#### (2) ふるさと納税の返礼品の取組みについて

本市のふるさと納税額については、近年、全国でも常に上位に位置している。

中でも2年連続市町村別農業算出額で全国1位の本市で生産される農産物を返礼品とする取組みの現状を把握するため、市からふるさと納税取扱事業者へ支払った委託料と取扱い品目一覧の資料請求を行った。

本格的な調査・研究を始めようとしていた矢先に、令和5年7月にふるさと納税取扱事業者が九州農政局から不適正表示の勧告を受け、令和5年12月には産地偽装の問題が発覚した。

#### (3) スポーツ合宿の誘致・受入体制等について

令和4年11月に一般社団法人都市スポーツコミッション(MSC)から、今後の事業計画について説明を受け、市との連携や地元各種団体との協力体制等について質疑を行った。

#### (4) 畜産の振興について

鹿児島県牧園町で開催された第12回全国和牛能力共進会の視察を行った。

過去最多となる41都道府県から、計438頭が出場、本県からは、計22頭出品されたが、本市からの出品はなかった。

宮崎県代表の成績は、第5区が宮崎中央JAから3頭、第6区は、種牛として高千穂地区JAから4頭の出品があり、種牛の部6区の高千穂町と五ヶ瀬町の4頭で1位を獲得、肉牛の部7区の高千穂町、小林市とえびの市の3頭が優等首席となり内閣総理大臣賞を獲得した。

これにより、本県は4大会連続の内閣総理大臣賞受賞となり、「日本一の宮崎牛」の実力を全国に示すことができた。

## 5 委員会としての意見

### (1) 畜産環境の整備及び処理に関すること

本市の特性からも、バイオマス発電施設を建設する事により、堆肥処理に苦慮している畜産農家の課題解決になり、また、畜産排泄物による硝酸性窒素の地下水汚染防止及び臭気の発散の軽減に繋がり、地下資源の環境も改善されると推測する。

また、バイオマス発電施設建設事業の推進にあたっては、PFI方式の採用や、国等の先進地認定の制度などを活用し、最大限のコスト削減に努めることを要望する。

併せて、2050年までのカーボンニュートラルの実現に向け、市民への協働や理解を促すためにも、カーボンニュートラルへの気運を醸成するための啓発活動を推進することをすべきと考える。

### (2) ふるさと納税の返礼品の取組みについて

令和5年7月及び12月に発生したふるさと納税返礼品取扱い事業者による2件の事案を今後の糧とし、適正な制度運営とともに、ふるさと納税返礼品に農産物を提供している市内の農業生産者等に対して、部局間で連携した新たな支援について検討すべきと考える。

### (3) スポーツ合宿の誘致・受入体制等について

今後は、MSCが主体となり事業推進することになるが、対外的な誘致はもとより、市内の各種スポーツ団体や地域団体も巻き込んだ形で受入体制態勢を整えることにより、より盤石な体制の構築が期待できる。

併せて、各種キャンプ誘致に必要となる施設の充実を図り、執行部とMSCが協働し、これまで以上の地域に根差した活動をすべきと考える。

### (4) 畜産の振興について

今回の全国和牛能力共進会では、都城地域からの出品は皆無であったが、市外県代表が多数入賞し、本県のレベルの高さを全国に示すことに繋がった。

次回の第13回全国和牛能力共進会は5年後に開催予定であるが、まずは、本市から県代表が選出されるためにも、関係機関と強力に連携し、事業を推進すべきと考える。